

春闘へ胎動、生活守る闘いへ

許せぬ軍拡・福祉後退の予算案



実質賃金確保へ

大幅賃上げこそねがい

来年度の政府予算案がきまるともいわれています。これによって福祉の後退・物価上昇、税負担の増大など国民の生活はますます追いつめられることになり、消費不況が長びき、景気の見通しも暗く、生活不安がつのついているいま、労働者・勤労者に国民生活を苦しめる行革推進の意向を隠さず、軍拡の意向を隠さず、賃上げと減税でという声が大きく

高まっています。財界は「軍事費突出は当然」「経済成長率は長くて四・パーセントに抑えたい」として賃上げは「三・四パーセントの範囲内」と公言し、賃金抑制のアドバルーンをあげています。

炭労は、十三日賃金専門委員会を開き、三月大会に提案する春闘要求の骨子について討議しました。地下産業で働くにふさわしい大規模賃上げのために、春闘にむけて全力をあげよう。

三池炭鉱に働くすべての労働者の生活向上をめざす、労働協約・労働条件・福利厚生などの改訂のための諸要求闘争は、毎年春闘の前段闘争として闘われます。この数年、会社は逆提案という形で私たちの要求をふみにじり、諸協定事項の切り下げをはかってきました。低賃金のうえに環境の悪化が慢性化している昨今、これらの諸要求の実現がますます望まれています。

情勢はきびしいといわれますが、身近な要求を職場から、地域から積みあげよう。要求案の内容は、①職場環境関係、②切羽温度を下げよ、など七項目。③労働協約・労働条件関係、④諸休日の取り扱いなど十六項目。⑤下請労働者の条件確保。⑥港務所の再雇用について。⑦福利・厚生関係で十一項目となっており、前年要求と比較すると若干整理されています。

この要求案は一月いっばい大衆討議を行い、三十日に集約され、二月初旬要求書を提出。中央交渉は中旬ごろとなります。大衆討議にあたっては、他産業との比較、どうして実現するかなどの問題をふくめ、活発な議論をすすめることが望まれます。

十三日、炭労の賃金専門委員会が開かれました。同委員会の賃金要求の原案は、春闘共同の統一要求基準二万円を坑外員の要求基準とし、実績職別などを加え坑内外要求月額を二万七千九百九十円とし、日額で九百九十円としていいます。なお賃金の討議を経て、炭労要求案は三月の大会に提案される予定です。



発行所
三池炭労労協組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033-4
編集兼 杉本 一男
発行人
半年間 1,200円 送料共
振替口座番号
労金大牟田
0968946-005

公判お知らせ

三池大災害裁判公判
二月二十二日午後一時から、福岡地方裁判所で。(42回)
坑内火災裁判公判
三月四日午後一時から、同右裁判所で。(35回)

日経連(大橋文平会長)は十三日臨時総会を開き、その報告のなかで賃上げを四・一パーセント内に抑えるよう求め、春闘をたたく労働者に全面的に挑戦しています。

労協・福利などの闘争へむけて

一大衆討議はじまる

炭労は労働協約統一問題での対応を協議するため、十四日各支部書記長会議を開きます。日程上は二十六日の中央委員会で準備会への参加決定を行うことになっていますが、大会の議題への声もあり、なお流動的の見られます。

春闘ひかえ 炭労賃専も

炭労は労働協約統一問題での対応を協議するため、十四日各支部書記長会議を開きます。日程上は二十六日の中央委員会で準備会への参加決定を行うことになっていますが、大会の議題への声もあり、なお流動的の見られます。

労戦統一で 対応を協議

炭労は労働協約統一問題での対応を協議するため、十四日各支部書記長会議を開きます。日程上は二十六日の中央委員会で準備会への参加決定を行うことになっていますが、大会の議題への声もあり、なお流動的の見られます。

北炭 夕張 ヤマの灯を消すな

閉山か再建かの岐路

賃金確保で生産再開へ

昨年十月十六日、北海道・北炭夕張新炭鉱で発生したガス突出事故は、坑内火災と注水という最悪の事態となり、九十三人におよぶ炭鉱労働者の尊い生命を奪い、いまなお四十九人が坑底深く残されています。災害発生から三月、現地では、炭労の指導のもとに一日も早く未収容者の遺体を収容し、完全な補償と保安体制の確立をした上での、ヤマの再建をめざすために全力をあげてきました。

しかし会社は、昨年十一月十五日に会社更生法の適用を申請、閉山を、幌内・真谷地に配転出向させ、再建かの岐路に立たされること

になりました。深刻な不安を招いている。①賃金は繰り延べる—などというもので、当面の資金繰りのために災害の起こった北地区区域をそのままとし、西部区域の採掘を再開するとして、その時期を十八日に予定しています。

この会社の再建計画を含む操業再開申請に対して、現地の札幌鉱山保安監督局は、保安確保の面で具体的な不十分として却下し、再検討を指示しました。また通産省も、四月以降の資金見直し、坑道整備の実績と今後の見直し、万全の保安対策が不可欠だとし、金融支援についても拒否している状況です。

また遺族会は、生産再開問題について「組合に一任」との態度を決めましたが、組合では会社の提案を受け入れるかどうか、十四日に大会(代議員)を開いて決めることになっています。

閉山か再建かの岐路に立たされることになりました。深刻な不安を招いている。①賃金は繰り延べる—などというもので、当面の資金繰りのために災害の起こった北地区区域をそのままとし、西部区域の採掘を再開するとして、その時期を十八日に予定しています。

この会社の再建計画を含む操業再開申請に対して、現地の札幌鉱山保安監督局は、保安確保の面で具体的な不十分として却下し、再検討を指示しました。また通産省も、四月以降の資金見直し、坑道整備の実績と今後の見直し、万全の保安対策が不可欠だとし、金融支援についても拒否している状況です。

また遺族会は、生産再開問題について「組合に一任」との態度を決めましたが、組合では会社の提案を受け入れるかどうか、十四日に大会(代議員)を開いて決めることになっています。

また遺族会は、生産再開問題について「組合に一任」との態度を決めましたが、組合では会社の提案を受け入れるかどうか、十四日に大会(代議員)を開いて決めることになっています。

また遺族会は、生産再開問題について「組合に一任」との態度を決めましたが、組合では会社の提案を受け入れるかどうか、十四日に大会(代議員)を開いて決めることになっています。

地底

▼一年が明け、めでたくもあり、めでたくもなし……というのが実感だが、「何となく、今年はいよいよことあることとし、元日の朝、晴れて風無し」と若山牧水は一九二一年に書いている。日々は昨年の引き続きで、希望がもてるというふうな状況ではないが、なにか「よいこと」とは新しく明日への期待にほかならず、それは変革への意志でなくてはならぬ。

▼今年のはじめはどうか。どこでも話題になる。国の予算が軍事費増大にむいて、国民むげは削るだけ削るというのでは、個人消費は冷えこむばかり。金利は下がり貯蓄へも眼はむかぬ。とはいっても目減り続きの賃金は、もともと余裕などあるはずはない。財界も資本もそして組合も、抑制をいおうのでは眼もあてられぬ。

▼昨年末ポーランドで戒厳令が敷かれた。ヨーロッパ大陸のほぼ中心に位置するこの国の悲劇は遠くにかのほぼ。流浪の民族、といわれた時代から、ヒトラーのアウトニヒツツ強制収容所のガス室での大量屠殺、そして、地下水道の闘い、がある。社会主義国にはあるまじき強権政治では、ポーランドの再生はない。なお抵抗は続いているが、悲劇は二度と起こしてはならぬ。

▼政・財・官界の有力者四百人以上が、初もうで、とか。いわゆるロッキード事件のワイロ高官、首相の犯罪、が犯罪になつたことでもいふのか。有罪が確定といわれるのに、この「軍団」は復活をわらっている。まさに民主主義の危機である。

▼北炭夕張新炭の存亡が、いよいよ急を告げてきた。つめたい坑底につかたまま、働く労働者には賃金も払わず生産再開とは、「どこまでもふみつけにするのか」という怒りの声よびかけ。